

技能実習生に関する評価調書

1. 対象技能実習生

氏名	KOU OTUHEI	性別	男
生年月日	1991年 1月 1日	国籍・地域	中国
実習実施者	有限会社 〇〇工業	監理団体	△△事業協同組合 ※ 団体監理型の場合のみ記入すること。
職種・作業	溶接職種・半自動溶接		

2. 技能実習実施状況

	2017年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
実習予定日数	21	19	22	20	22	22	21	23	20	21	21	18
出勤日数	21	18	22	20	22	22	21	23	20	21	21	18
出勤率(%)	100	95	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
欠勤日数		1										
有休取得日数								2				2

有給休暇取得日数は出勤日数として計上します。

	2018年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
実習予定日数	21	19	22	20	22	22	21	23	20	21	21	18
出勤日数	21	19	22	20	22	22	21	23	20	21	21	18
出勤率(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
欠勤日数												
有休取得日数		2			1			1				

合計	実習予定日数	500	日	出勤日数	499	日	出勤率	99.8	%
				有給休暇	8	日	欠勤日数	1	日

3. 技能検定・技能実習評価試験

試験名・試験実施団体	溶接技能評価試験(専門級)・一般社団法人 日本溶接協会				
受検日	2018年 11月 1日	可否	合格	・	不合格
未受検の場合はその理由					

4. 技能実習指導員の所見

所見	<p>入国当初は半自動アーク溶接機等の各種設備の取扱いやその簡単な整備、溶接製品の梱包等の周辺の業務の一つ一つに戸惑いが見られ、指導員による指導もなかなか身につかないなど、初めに予定していた実習ペースの見直しも検討するほどであったが、1年目の後半に入った頃から、作業現場における日本語にも慣れできたのか、初段的な作業であれば、特段の注意等を行わずとも問題なく作業が行えるようになり成長した。2年目に入った頃からは、本人としても自信が芽生えてきたのか、作業に積極性が見られるようになり、通常は指導するのにも困難な上向き姿勢での溶接作業も他の技能実習生よりも早く習熟するなど、技能の着しい向上がうかがえるようになり、簡単な作業であれば、後輩技能実習生に助言するほどの能力を身につけるようになった。</p> <p>そして、3年目に入ってから、前年にも増した熟意ある技能実習への取組み姿勢が見られ、スピードや出来映えも意識した作業を行うなど、技能実習評価試験には残念ながら不合格となったものの、日常の業務においては、下向きや横向きの姿勢での溶接作業は合格者と変わらない程度でできるまでの高い技能の修得を見せた。また、作業に当たり、安全衛生、災害防止の対策についての日本語での指示を正しく理解しながら、事故など適切に行っていた。</p>
----	---

※ 技能実習においてどのような技能を修得し、現在、何がどの程度できるか等について、日本語能力にも触れながら具体的に記載すること。

5. 生活指導員の所見

所見	<p>入国当初は日本語能力が高くなく、技能実習指導員による指導の理解も思うように進まなかったせい、やや自信なげな様子で作業しており、その不安感やホームシックのせい、勤務時間終了後のプライベートな時間でも口数が少なく、生活指導員としても心配していました。入国後半年を過ぎた頃から、徐々に日本語能力が上がってきたこともあり、自ら技能実習生だけでなく、日本人の同僚とも談笑をするなど、実習中やそれ以外の生活の場でも、笑顔が見えるようになってきました。今では、後輩技能実習生の悩みや相談事を受け、技能実習生の中のリーダー的存在として、充実した技能実習生活を送っています。</p> <p>もともと大人しい性格であるのか、日常生活においても特段のトラブルを起こすことなく、ゴミ出しのルール等も早くから理解し、夜中まで遊んで技能実習に支障を来すなどの問題行動も見られませんでした。2年目を過ぎた頃から、寮の近所の方とも積極的に挨拶や会話を交わすようになり、地域の夏の盆踊り大会ではやぐらの上で踊るなど、地域コミュニティーの中でもすっかり溶け込み、安心して見ていられるようになりました。</p>
----	---

※ 生活態度等について、日本語能力にも触れながら具体的に記載すること。

6. 技能実習責任者の所見

所見	<p>技能実習指導員の所見にもあるとおり、当初は技能修得に伸び悩みが見られたものの、日本語能力の向上に促し、指導内容がよく理解できるようになったのか、急速に高い技能修得を見せ始め、通常であれば修得することが困難な作業も他の技能実習生よりも早く身につけるなど、その修得レベルは高く評価でき、技能実習評価試験には残念ながら不合格となったものの、日常の業務においては合格者と変わらないほどの優秀な勤務成績を示している。</p> <p>日常生活においても、特段の問題行動は見られず、むしろ、2年目を過ぎた辺りからは周囲に積極的に溶け込む姿勢を見せ始め、元来の真面目な性格もあって、同僚や地域住民とも非常に良好な関係を築いていた。</p> <p>これらのことから、本表の技能実習生の技能実習は成功例の一つとして高く評価できるものである。</p>
----	---

※ 技能等及び日本語能力の向上、生活態度等の諸状況を踏まえた総合的な評価を記載すること。

7. 監理責任者の所見

所見	<p>1年目の定期監査時に面談した際には、まだ日本語能力や技能実習そのものに自信がうかがえず、若干、心配していたが、実習実施者側が述べているとおり、2年目を過ぎた頃から技能修得や日本語能力に急速な伸びを見せ始め、それが自信につながったのか、定期監査で作業現場を訪問するたびに、明るく挨拶してくるなど、充実した技能実習生活を送っていたものと見ていた。残念ながら、技能実習評価試験には合格できなかったものの、技能実習生としての評価は非常に高い。</p>
----	--

※ 上記4～6の各所見及び定期監査等における本人との面談等を踏まえた総合的な評価を記載すること。

上記の内容について、事実と相違ありません。

20〇〇年 〇〇月 〇〇日

実習実施者	有限会社 〇〇工業	監理団体	△△事業協同組合
技能実習責任者	〇〇 〇〇	監理責任者	△△ △△